

派遣先所属 福島県次世代産業課
氏 名 杉本 諒 (すぎもと りょう)
派遣期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の次世代産業課では、主に再生可能エネルギー・水素関連産業及びロボット・航空宇宙関連産業の集積及び産業振興を行っております。これは、東日本大震災により産業基盤が破壊された浜通り地域の復興を目指す国家プロジェクトである、福島イノベーション・コースト構想に基づいた業務となります。震災から13年が過ぎましたが、浜通り地域の産業基盤の回復はまだこれからというのが現状です。

そのような中で私が担当する業務は、ロボット関連産業の集積・産業振興であり、主に2つです。1つ目は、福島ロボットテストフィールド（以下「RTF」という。）の管理（使用料関係）と補助金事務です。RTFとは、福島イノベーション・コースト構想に基づいて県が整備した、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点で、浜通り地域の南相馬市にあります。RTFではインフラや災害現場を模擬した環境など様々な施設を使用することができ、その使用料及びその補助事業に係る事務を担当しています。

2つ目は、ロボット・ドローンの社会実装に向けたユースケースの創出事業の主担当です。これまでRTFを核に行ってきたロボット関連事業の成果として福島県産のロボットやドローン（以下「ロボット等」という。）が製品化されている中、今後はこれらロボット等をどのように社会で使っていくか（サービスの検討）、あるいは、使ってもらいか（パートナー連携、販路拡大）が課題と感じています。そこで、今年度の新規事業である本事業では、県内企業からロボット等を活用したサービスのアイデアを公募し、実証実験を通じた検証及びその成果の横展開を行うことで、ロボット等の社会実装を推進します。具体的な業務ですが、事業の仕様の検討から、公募の準備、そして採択された受託者との契約・業務を行っています。



図1 南会津町でのドローン物流実証



図2 田村市でのドローン医薬品配送実証

2 被災地の復旧・復興の状況

私は浜通り地域の富岡町の出身です。中学三年生の卒業式後に被災し、避難生活を経験しました。現在は派遣により、福島県に戻り復興のため従事していることにご縁を感じます。富岡町は最近まで大部分が帰還困難区域に指定されていたため、これまで町に戻れたのは数回ですが、今年春に車を走らせ、富岡町夜の森地区の名物である桜トンネルなど落ち着いて町を見てきました。富岡町を含め双葉郡は、新しい建物が建っていたり、店が営業再開していたりなど復興の兆しが見える部分もある一方で、震災当時の痛ましい光景が多く残っており、復興は道半ばという印象です。

3 被災地へ派遣となり感じたこと

福島県へ派遣となり感じたことは、異なる文化の共存です。県土が広く、県を構成する3地域の浜通り、中通り、会津で気候、文化や気風が異なることは、埼玉県ではあまり感じられないことかもしれません。また、福島県ではそれ故に雄大な自然や、美味しい料理がたくさんあります。

異なる文化圏の方々や私のような県外から訪問した方々全員の視線が復興に向けられていると感じられます。東日本大震災と原発事故による複合災害を経験した福島県の復興には長い道のりがありますが、着実に進んでいけると感じた次第です。

